

NII学術情報基盤オープンフォーラム2020（2020/6/8）

国立情報学研究所における 次期目録所在情報サービスの検討状況

これからの学術情報システム構築検討委員会事務局

国立情報学研究所 村上 遥

murakami_Haruka@nii.ac.jp

方針 ビジョン

これから委員会

中央システム の提供

NII

個別課題の解決

図書館システム（ローカル）
電子リソース
メタデータ

ワークフロー部会

運用

共同調達
組織

コミュニティ

モデル部会

基本方針

- (1) 現在の目録所在情報サービス機能を維持
- (2) より豊かな機能を各機関が**選択的**に導入可能に
 - 2-1) 電子情報資源への対応
 - 2-2) 業務効率化への対応
 - 2-3) メタデータ高度化への対応

これらを実現するため、システムの軽量化・合理化を図る。

「これからの学術情報システムの在り方について（2019）」

(1) 目録所在情報サービス機能を維持

現在の図書館システムからの接続方法

(CATP) は引き続き提供します。

- 現行のNACISIS-CATのデータ，機能がそのまま利用可能
 - 参照MARC (PREBOOK含む)も利用可能
- 現行のNACISIS-ILLの機能がそのまま利用可能
- CAT2020で追加された機能は踏襲

(2) より豊かな機能を各機関が選択的に導入可能に

2-1) 電子情報資源への対応

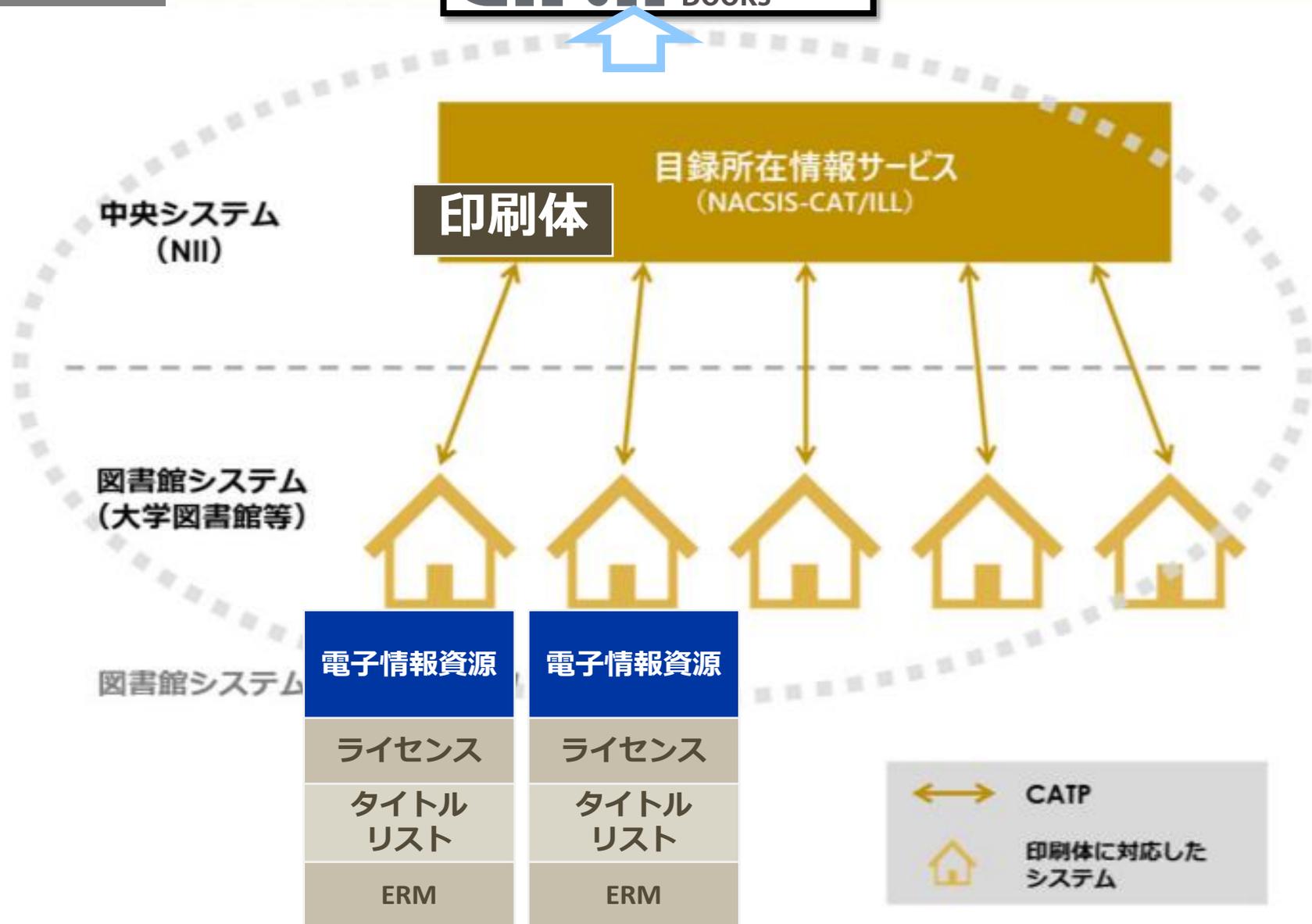
- **JUSTICE提案書**のタイトルリスト・ライセンス情報をあらかじめ登録, 参加館が利用可能

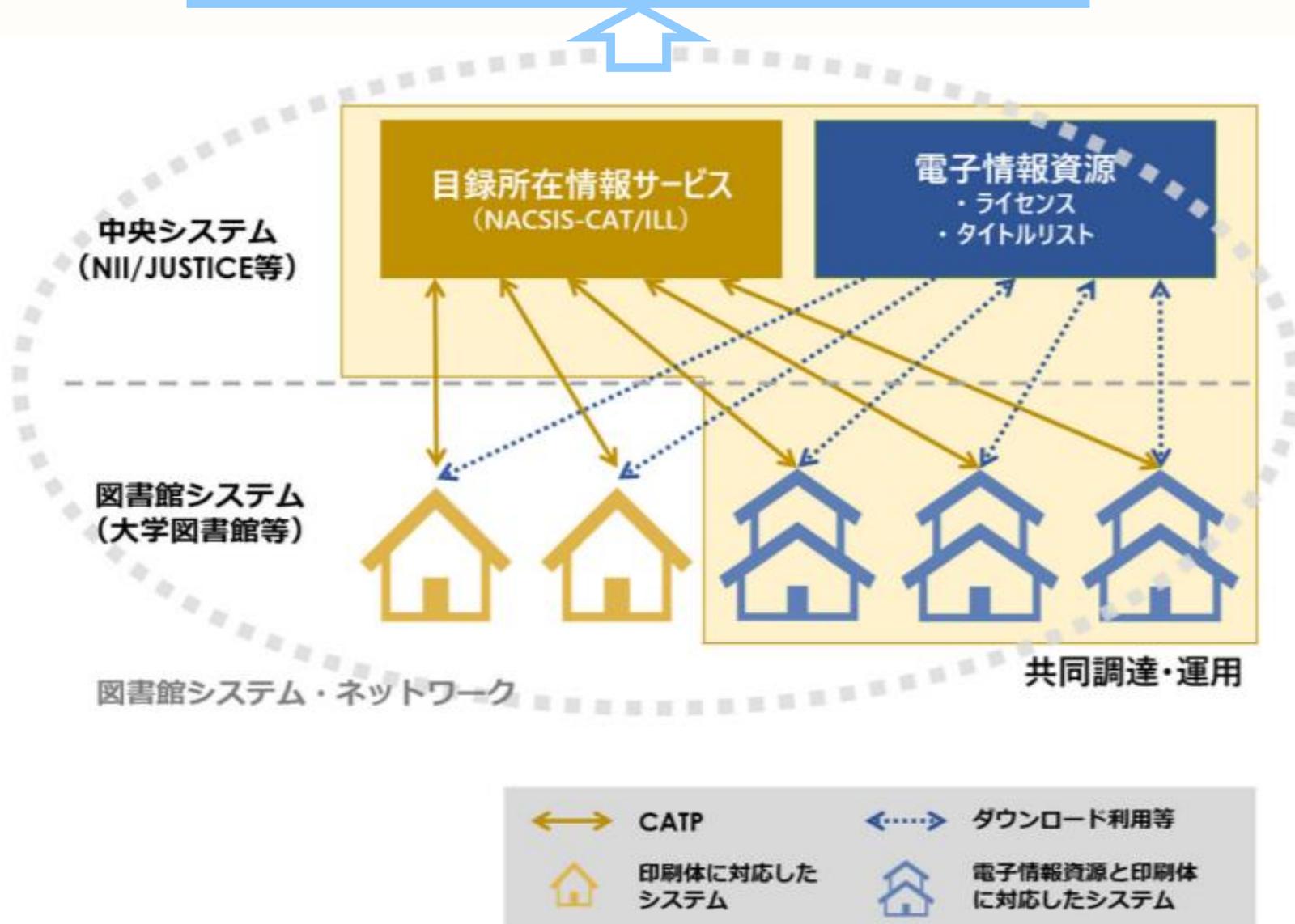
2-2) 業務効率化への対応

- 更なる流通データの活用による目録業務の効率化を支援

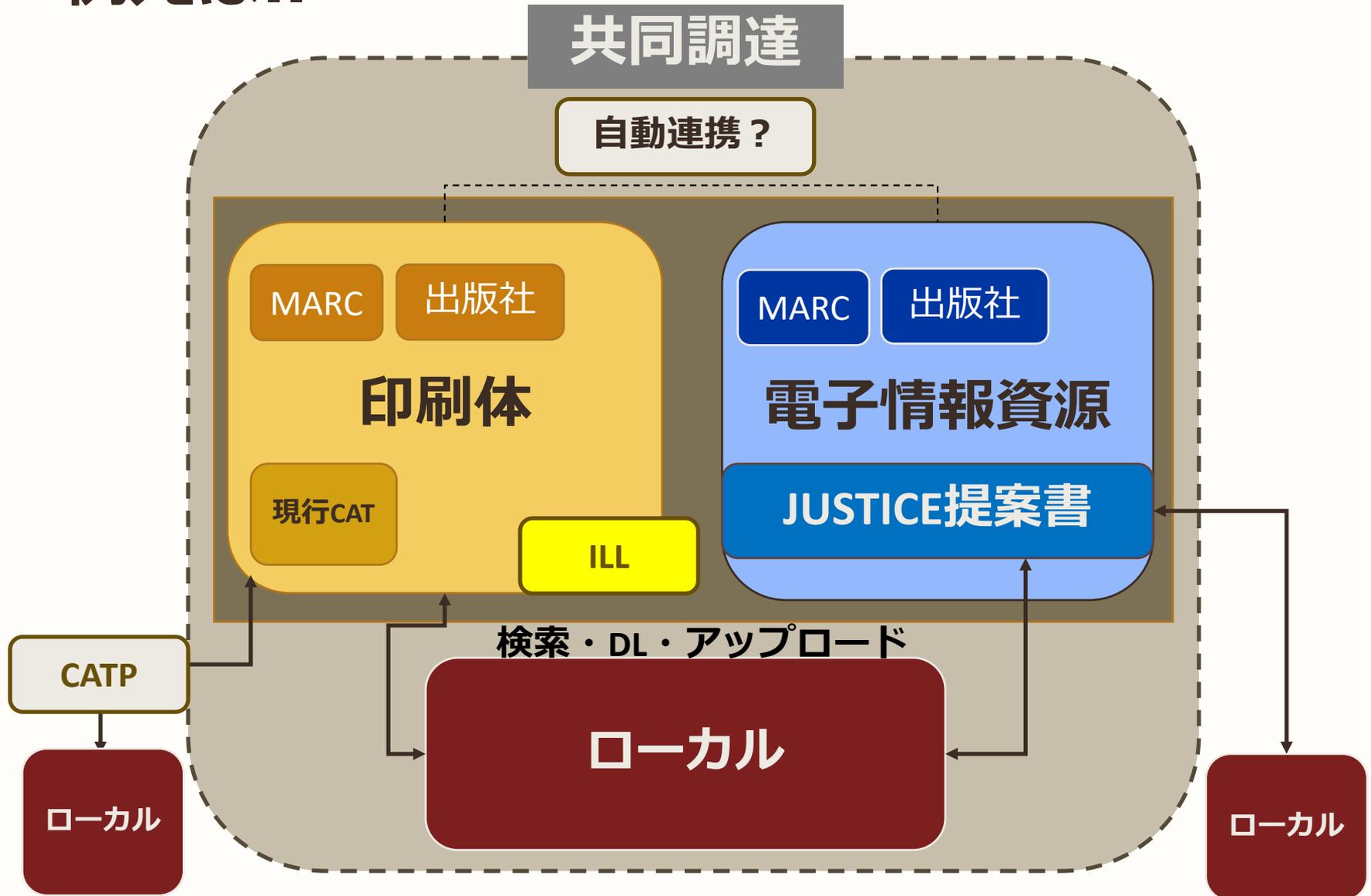
2-3) メタデータ高度化への対応

- 国際的なメタデータ標準への対応 (NCR2018, RDA [目録規則], MARC21/BIBFRAME [メタデータフォーマット])





例えば..



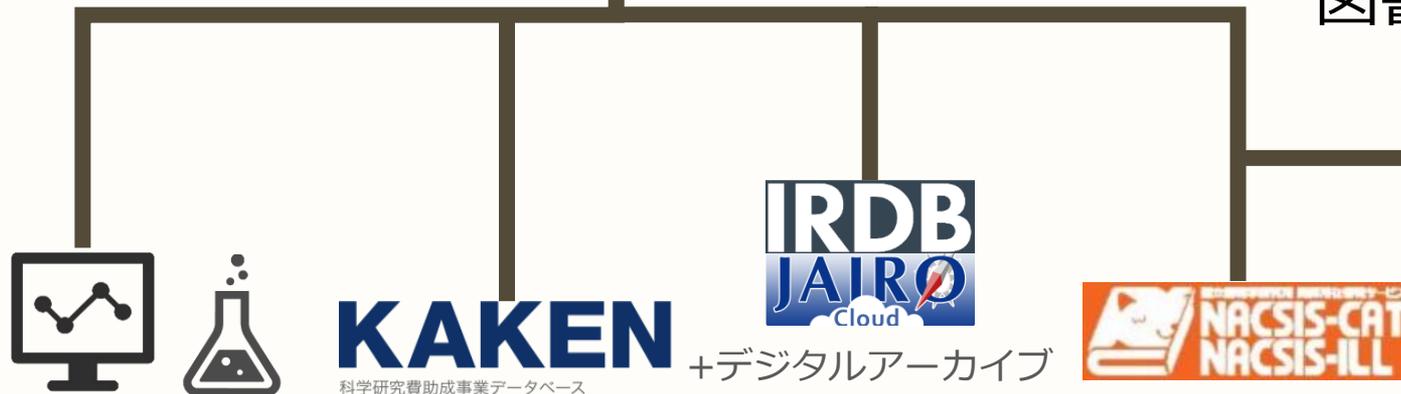
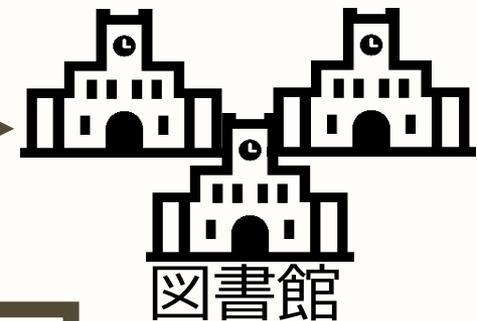
統合的発見（アクセス）環境

検索エンジン

Knowledge Graph

CiNii Research

OPAC/ディスカバリ



スケジュール（予定）

		2020年度				2021年度				2022年度			
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
現行CAT・ILL													
次期CAT/ILL	検証												
	開発												
	運用準備												
	公開												
電子リソース機能	実証実験												
	運用準備												
	運用開始												

移行作業

ポイント

機能検証（2019～2020年度）

- メタデータのマッピング
- 現行のローカルシステムとの連結機能

ポイント

※大規模なシステム移行

- メタデータのマッピングの一部不具合、システム移行当初の動作不安定、スケジュール遅延など、予期せぬ事態が生じるリスク
- 次期システムへの移行のため、2022年度に**最大3週間程度**の停止期間が必要となる見込み

余裕を持って関係機関に事前に状況をお伝えするとともに、参加館からのフィードバックをいただきつつ、進めてまいります。

Let's walk together



ご質問をどうぞ

▶ slack

(OF2020 #これからトラック質疑応答)

